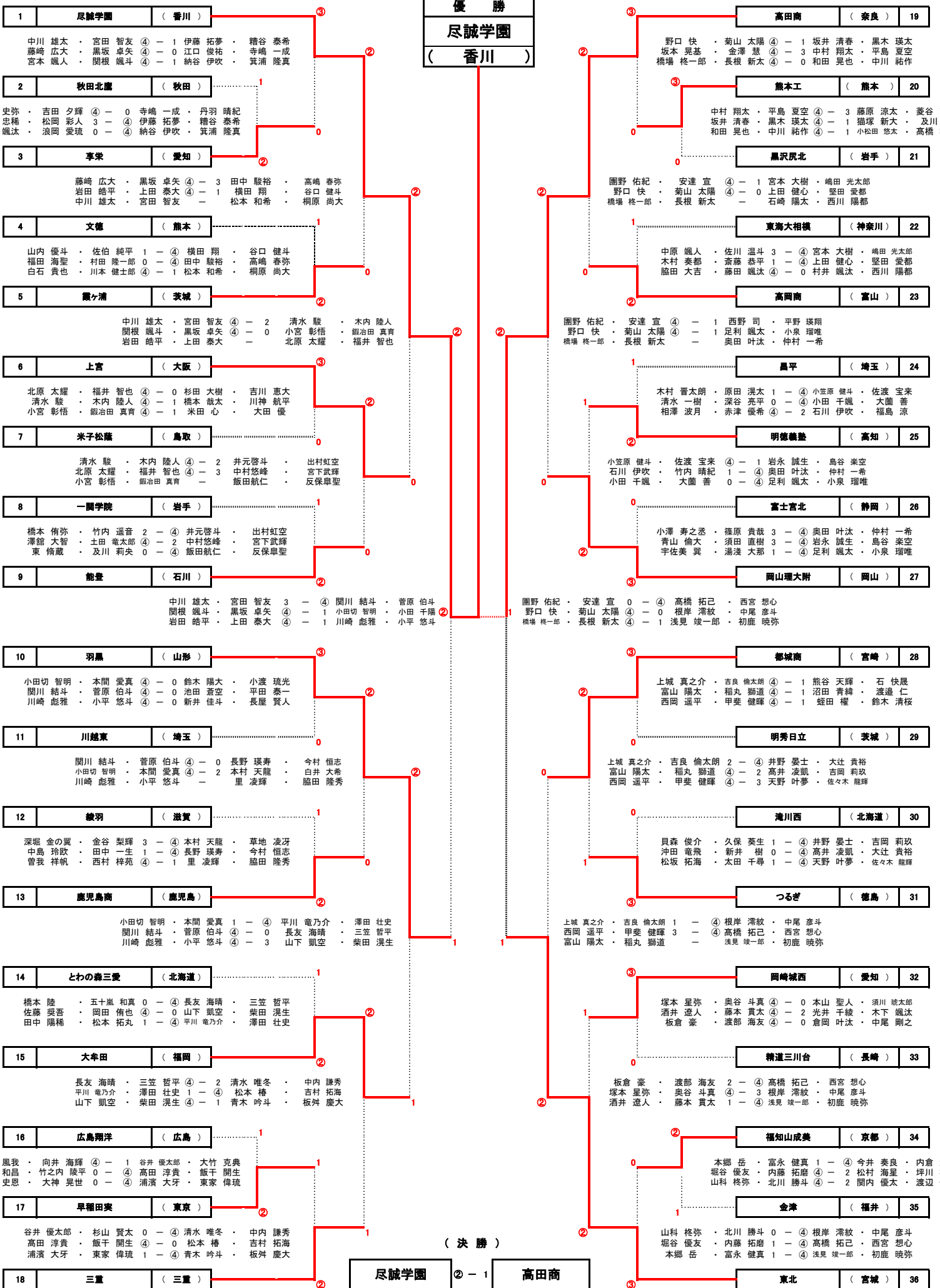


第47回 全日本高等学校選抜ソフトテニス大会 (男子)

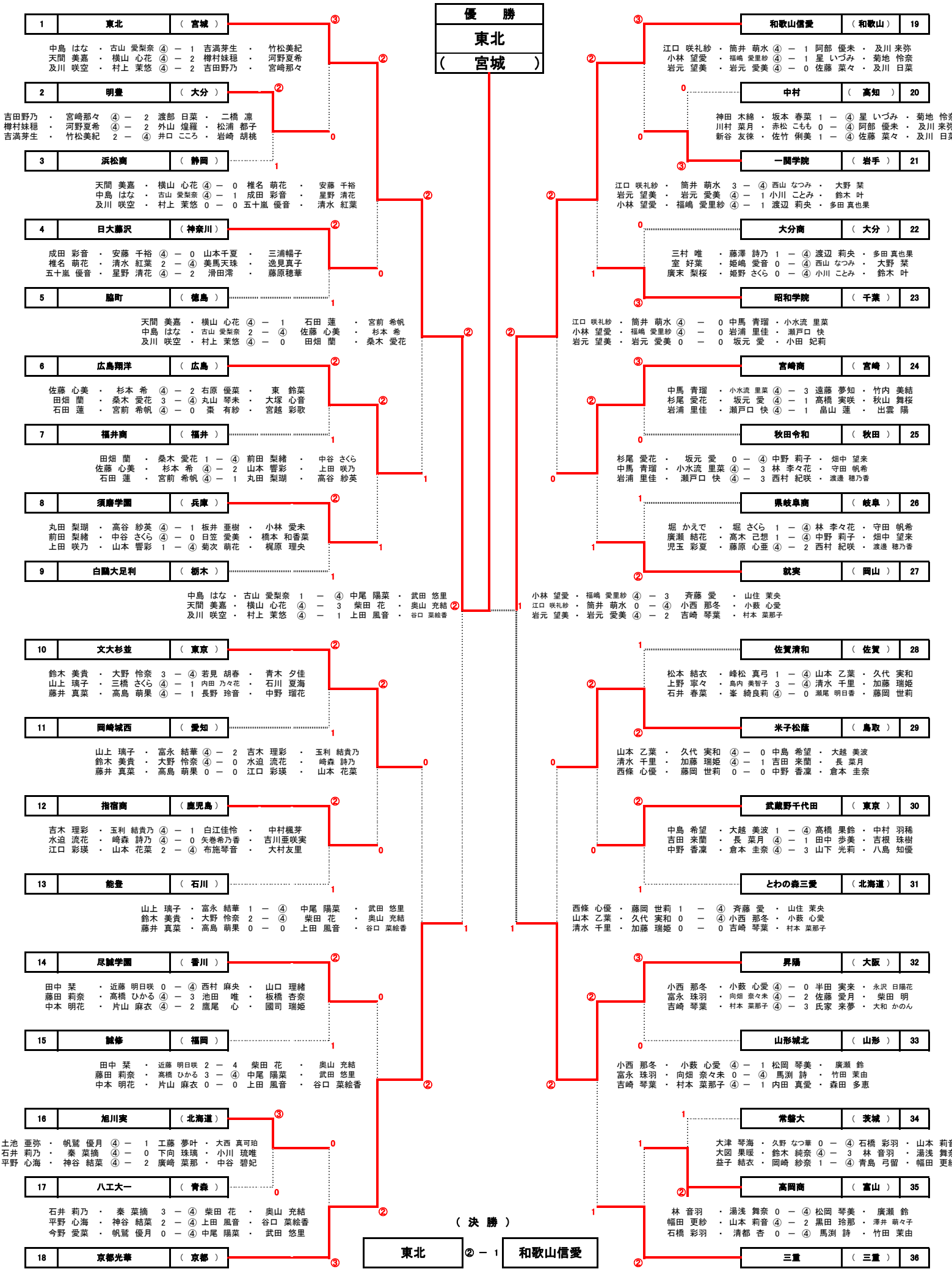


優勝
尽誠学園
(香川)

中川 雄太 ・ 宮田 智友 1 - ④ 野口 快 ・ 菊山 太陽
関根 颯斗 ・ 黒坂 卓矢 ④ - 1 坂本 晃基 ・ 金澤 慧
岩田 皓平 ・ 上田 泰大 ④ - 3 橋場 椋一 ・ 長根 新太

公式HP:愛知県高体連ソフトテニス専門部
<http://aichikoutairensofttennis.web.fc2.com/index.html>

第47回 全日本高等学校選抜ソフトテニス大会 (女子)



中島 はな ・ 古山 愛梨奈 0 - ④ 岩元 望美 ・ 岩元 愛美
天間 美嘉 ・ 横山 心花 ④ - 0 江口 咲礼紗 ・ 筒井 萌水
及川 咲空 ・ 村上 茉悠 ④ - 3 小林 望美 ・ 福岡 愛里紗

第47回全日本高等学校選抜ソフトテニス大会を振り返って

第47回全日本高等学校選抜ソフトテニス大会が、全国9地区の予選を勝ち抜いた男女各36校の参加を得て、愛知県名古屋市の「日本ガイシスポーツプラザ」で開催されました。「春の選抜」として全国総体に次いで高校生の皆さんが目標とするこの大会、およそ3年も及ぶ新型コロナウイルス感染症の影響を受けるなか、選手・監督はもとより大会関係者の安全対策を講じて大会開催への運びとなりました。ご理解とご協力に感謝申し上げます。

今年度は、日本ソフトテニス連盟の協力のもと、YouTubeチャンネルで大会三日目の準々決勝よりライブ配信を実施し、出場校の関係者の方々をはじめ、全国のソフトテニス愛好者の皆様にも生の映像を見ていただける機会を設けることができました。

大会の結果は、男子は尽誠学園高校が10年ぶり3回目、女子は東北高校が2年連続年2回目の栄冠を勝ち取り、見るものに大きな感動を与えてくれました。近年、新型コロナウイルス感染症の影響で、各校思うような活動ができず、強化にもさまざまな創意工夫が求められたことと思います。そうした苦労を重ねながらも、高校生たちが一球の重みをかみしめながら真剣に、そしてどんなに苦しいときも笑顔を絶やさずコートを駆け回る姿は美しく多くの人びとに感動を与えてくれました。

最後に、開催に関して何かとご不便をおかけした点もあったかと思いますが、関係者の皆さまのご理解とご協力のおかげで無事に終えることができました。特に、日本ソフトテニス連盟をはじめ、今大会の円滑な運営にご尽力をいただきました愛知県ソフトテニス連盟、愛知県高等学校体育連盟ソフトテニス専門部、東海3県の派遣審判員の方々（静岡県・岐阜県・三重県）、全国高等学校体育連盟ソフトテニス専門部、さらに準備から終了までの4日間を明るくさわやかに大会運営を支えてくれた地元愛知県の高校生補助員の皆さんに深く感謝申し上げます。

本当に、ありがとうございました。

大会競技委員長 横田和典

男子

準決勝

尽誠学園高校（香川）②－1 羽黒高校（山形）

中川 雄太・宮田 智友 3－④ 関川 結斗・菅原 伯斗

平行陣の羽黒と雁行陣の尽誠学園の対戦になった第1対戦は、序盤はテンポよく攻めた尽誠学園がG3－1リードするが、5G目から羽黒が8ポイント連取してG3－3となった。ファイナルゲームは常に尽誠学園がリードしては羽黒が追いつく展開となったが、4本

のマッチポイントを凌いだ羽黒が最後はスマッシュを決め大逆転で勝利した。

関根 颯斗・黒坂 卓矢 ④－1 小田切 智明・小田 千陽

共にカットサーブからダブルフォワードで攻撃するペア同士の対戦となった第2対戦は、序盤はサーブスキープとなり、G2－1で尽誠学園がリードする。4G目は尽誠学園がカットサーブのレシーブをロビングで切り返し、相手の陣形を崩して1ポイントも与えず取ると、5G目も続けて尽誠学園が取り、G4－1で勝利した。

岩田 皓平・上田 泰大 ④－1 川崎 彪雅・小平 悠斗

ゲーム序盤から尽誠学園は、後衛岩田が強気で打ち込みポイントを重ね、羽黒のボレーやスマッシュをよくフォローして一気にG3－0でリードする。4G目は羽黒が粘り、相手のマッチポイントも凌ぎ取る。5G目に羽黒の後衛川崎の足がつり、平行陣に陣形を変え戦うが、尽誠学園が押し切ってG4－1で勝利し決勝進出を決めた。

準決勝

高田商高校（奈良）②－1 東北高校（宮城）

團野 佑紀・安達 宣 0－④ 高橋 拓己・西宮 想心

序盤から東北の後衛の強気のストロークで攻め、要所で前衛がポイントを決めると、G2－0とリードする。3G目は一進一退の攻防となり長いデュースになるが粘って東北が取ると、4G目も一方的に押し切り、G4－0で東北が先取した。

野口 快・菊山 太陽 ④－0 根岸 濤紋・中尾 彦斗

序盤から高田商は前衛菊山の積極的に攻める素晴らしいプレーが連発し、一気にG3－0とリードする。4G目も一方的な展開になりG4－0で高田商が圧勝した。対戦は1－1となり3番勝負にもつれた。

橋場 柊一郎・長根 新太 ④－1 浅見 竣一郎・初鹿 暁弥

序盤から、お互いの後衛が攻撃的に打ちテンポの速い展開の中、高田商が前衛長根の鮮やかなボレーが決まるなどG2－0でリードする。3G目は長いデュースとなるが、東北にミスが出てG3－0となる。東北は4G目を粘って取るが、最後まで高田商の前衛がボレーを決め快勝。決勝進出を決めた。

決勝

尽誠学園高校（香川）②－1 高田商高校（奈良）

中川 雄太・宮田 智友 1-④ 野口 快・菊山 太陽

序盤から高田商は相手の前衛宮田を攻めポイントを重ね一方的にG3-0とリードする。4G目は逆に尽誠学園の後衛中川が相手前衛を攻めてG3-1となるが、5G目は高田商がレシーブを厳しいコースに打ち込みポイントを重ねG4-1で勝利した。

関根 颯斗・黒坂 卓矢 ④-1 坂本 晃基・金澤 慧

ダブルフォワードで攻める尽誠学園に対し高田商はロビングを上げてフォローする展開が多かった。序盤は高田商のロビングが浅くなり尽誠学園がスマッシュを決めG3-0でリードする。4G目は高田商が深いロビングからスマッシュミス进行を誘い1G挽回するが、5G目は尽誠学園が攻め切ってG4-1で勝利した。優勝の行方は3番勝負にもつれた。

岩田 皓平・上田 泰大④-3 橋場 柊一郎・長根 新太

緊張感漂う中、3対戦目は白熱した決勝戦らしい好ゲームになった。激しいラリーとなった序盤は尽誠学園が2G連取する。続く2Gは逆に高田商が取りG2-2。5G目は高田商が積極的に仕掛けたがミスが出て尽誠学園がG3-2でリードする。6G目は高田商が相手の攻撃を凌ぎ取るとG3-3となった。ファイナルゲームは尽誠学園が前衛上田のスマッシュや相手のスマッシュをフォローボレーで決めるなど流れは尽誠学園がつかみ6-0とリードし、最後は尽誠学園岩田が相手のパッシングをよく走って拾い、スマッシュミスを誘って優勝を決めた。

女子

準決勝

東北高校（宮城）②-1 京都光華校（京都）

中島 はな・古山 愛梨奈 1-④ 中尾 陽菜・武田 悠里

最初の対戦は、東北はダブル後衛、京都光華は雁行陣の対戦となった。1G目は東北の強気に打ち込み先取するが、2G目以降は京都光華の前衛武田がボレーやスマッシュなどを決め相手にプレッシャーをかけミスを誘い4Gを連取しG4-1で勝利した。

天間 美嘉・横山 心花 ④-3 柴田 花・奥山 充結

第2対戦は、東北が前衛横山の強気のネットプレーや後衛天野の強打でポイントを重ねG3-1でリードする。5G目は京都光華が相手のショートボールを拾いポイントにするなど、相手の攻撃を凌ぎこのゲームを取ると、続く6G目も2度のマッチポイントも凌ぎG3-3となる。ファイナルゲームは東北が1-3とリードされたが、前衛横山のスマッシュやボレーなど強気に攻め6ポイント連取し7-3で勝利した。

及川 咲空・村上 茉悠 ④－1 上田 風音・谷口 菜絵香

決勝進出がかかった大事な 3 番勝負。1 G 目は京都光華の後衛上田のセンターに強打を決めるなど先取する。2 G 目はデュースにもつれたが東北の村上が要所でボレーを決め取ると、一気に 2 G を連取し G 3－1 となる。5 G 目は京都光華が 3 本のマッチポイント凌ぎデュースになるが、最後は東北の前衛横山がボレーやスマッシュを決め、G 4－1 で東北が決勝戦進出を決めた。

準決勝

和歌山信愛高校（和歌山）②－1 昇陽高校（大阪）

小林 望愛・福嶋 愛里紗 ④－3 斉藤 愛・山住 茉央

中村学園女子はダブル後衛、昇陽は雁行陣の対戦となった。序盤から昇陽が前衛山住の積極的なプレーでポイントを取るなど、G 3－1 でリードする。5 G 目から和歌山信愛は強気で前衛の近くを攻めポイントを重ねると G 3－3 となる。ファイナルゲームも強気で攻めた和歌山信愛が相手のミス进行を誘い 7－5 で逆転勝利した。

江口 咲礼紗・筒井 萌水 0－④ 小西 那冬・小藪 心愛

雁行陣同士の対戦となった第 2 対戦は、昇陽の後衛小西の強烈なレシーブアタックなどで 1 G 先取する。2 G 目以降は小西の安定感あるミスが少ないストロークと前衛小藪の積極的な動きから相手のミス进行を誘い一気に 3 G を取り、昇陽が G 4－0 で圧勝した。

岩元 望美・岩元 愛美 ④－2 吉崎 琴葉・村本 菜那子

和歌山信愛は序盤からロビングを上手く使い相手を左右に揺さぶり、昇陽の後衛吉崎もよく走って繋ぎ前衛村本がボレーやスマッシュを決めるなど、一進一退の好ゲームになった。サービスキープで和歌山信愛が G 3－2 とリードして迎えた 6 G 目は、2－2 から昇陽が痛恨のダブルフォルト。最後は和歌山信愛が相手前衛のサイドを突き G 4－2 で勝利した。

決勝

東北高校（宮城）②－1 和歌山信愛高校（和歌山）

中島 はな・古山 愛梨奈 0－④ 岩元 望美・岩元 愛美

ダブル後衛同士の対戦となった第 1 対戦は、序盤は和歌山信愛の粘り強いラリーに対して東北はカットストロークなど揺さぶりを掛けるがミスとなり、G 2－0 と和歌山信愛がリードする。3 G 目以降は和歌山信愛が相手の仕掛けが甘くなったところを強打するなどポイントを重ね G 4－0 で圧勝した。

天間 美嘉・横山 心花 ④－0 江口 咲礼紗・筒井 萌水

地力に勝る東北ペアは、速いテンポで強打する後衛天野のストロークで優位な展開を作ると、前衛横山が次々とネットプレーを決めて一方的な試合になった。G4－0で東北が圧勝した。

及川 咲空・村上 茉悠 ④－3 小林 望愛・福島 愛里紗

緊張感が漂う中で行われた決勝戦の3番勝負は雁行陣の東北とダブル後衛の和歌山信愛の対戦で、白熱した決勝戦らしい好ゲームになった。東北の前衛村上のスマッシュやボレーを和歌山信愛はよくフォローし、逆に和歌山信愛の攻撃的なアタックを反応よく面を作りディフェンスするなど、お互いにレシーブキープでG3－3となった。ファイナルゲームは東北が村上の連続ボレーポイントなどで6－1とリードする。和歌山信愛も積極的に前衛を攻めるなど3ポイント返すが、最後は和歌山信愛の福島のパレーがネットとなり東北が優勝を決めた。

第47回全日本高等学校選抜ソフトテニス大会記念ストラップについて

令和4年3月27日～30日、愛知県日本ガイシホールで開催の第47回全日本高等学校選抜ソフトテニス大会において、愛知県ソフトテニス連盟・愛知ソフトテニスファミリーから昨年に引き続き出場校・役員・補助員に大会記念ストラップが配られました。

カードには「新型コロナに負けるな!」「可能性は無限大!」「Do my best & Never give up」が書かれています。

ストラップはソフトテニスストリングを使い、TOKYO2020 日本ユニフォームのカラーをイメージしています。

白いストーンは「友情の石」のホワイトオニキスを使用しています。また、宝石言葉は「成功、厄除け」他となっています。

